

びえい農業SDGsへの挑戦

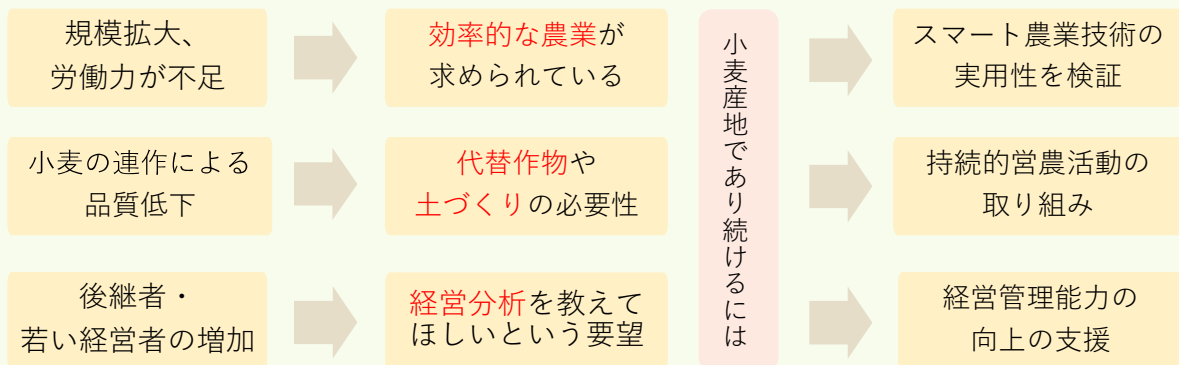
健全な小麦産地であり続けるための戦略

活動対象：美瑛町 赤羽地域10戸

美瑛町では、規模拡大による労働力不足や小麦の連作が問題となっており、持続的な営農活動に向けた対策が必要となっている。作業効率化のため、衛星リモートセンシングに基づく小麦窒素施肥に農業者6戸が取り組み、スマート農業技術の有効性を実証した。5戸が大豆省力栽培や土づくりに取り組み、持続的な営農活動に向けた個別経営課題解決に取り組んだ。後継者・若手経営者の経営能力向上として、経営解析ツールを用いた経営分析に3名が取り組み、分析結果から削減すべき費用を選定した。

1 課題の背景

◆赤羽地区：平均耕地面積41ha。水稻・畑作中心の複合経営。



2 活動の経過

衛星リモートセンシングに基づく小麦窒素施肥



自動可変施肥の実演会



センシングの意見聴取

- ◆関係機関と役割分担、方向性を共有
- ◆個別巡回・研修会での利用促進
- ◆農業者からの使用感、改善点聴取
- ◆有効性の検討、関係団体へ成果報告

センシングマップの実用性を検討

持続的な営農活動のための経営課題解決



大豆の株間除草剤散布



堆肥攪拌機実演会

- ◆大豆の省力栽培試験の実施
- ◆土壌理化学性改善の提案
- ◆堆肥攪拌機の有効利用の提案

持続的な営農活動の提案・および結果の検証

経営解析ツールを用いた経営分析の実施



資材費を作物ごとに仕訳



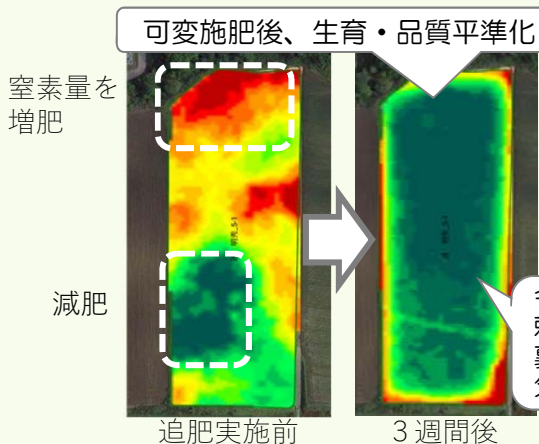
- ◆想定される経営課題の聴取
- ◆解析ツールによる経営分析の実施
- ◆改善項目の抽出と実践可否の検討

後継者・若手経営者の経営管理能力習得を支援

3 活動の成果

衛星リモートセンシングに基づく小麦窒素施肥

目標 7 戸/実績 6 戸(86%達成)



◆ 6 戸がセンシングマップの生育良否に応じて窒素量を増減させた施肥を実施

衛星リモセンの優点・利点	不満・改善点
◎生育良否の裏付けとなる	△経験、感覚の方が実態に近い
◎可変施肥、位置決め根拠	△操作に慣れないと手軽に見られない
◎他人と比較できる	

実証したスマート農業技術の効果、有効性を研修会等で地域全体に報告

得られた成果を地域全体の共通認識に
→ **スマート農業普及を加速化**

持続的営農活動のための経営課題解決

目標 5 戸/実績 5 戸(100%達成)

取り組み数	ねらい	具体的課題
5 戸 (9 課題)	大豆導入・省力栽培実証	無カルチ栽培 緩効性肥料活用 大豆間作小麦栽培
	土壌理化学性改善	カットドレーン、モミサブローてんさい高窒素肥料活用 攪拌機使用堆肥の品質向上
	耕畜連携	TMRセンターとの交換耕作

無カルチでも雑草が少なく、省力化となっておりありがたい!

◆ 5 戸が持続的営農活動のための課題解決を実施

◆ 大豆を 1 戸が新規導入、1 戸が作付け拡大した

◆ 4 戸の小麦連作率低下

省力技術の実装、土づくりの推進で
持続的営農活動を後押し

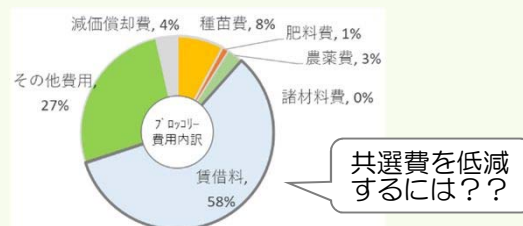
経営解析ツールを用いた経営分析の実施

目標 3 戸/実績 3 戸(100%達成)

若手農業者	前年度に見える化した問題点	課題・改善方策
A	ばれいしょ賃料料金高く、収益性悪化	コントラ収穫の見直し
B	ブロッコリー賃借料(共選費)は想像より高額	製品率向上・外品減少
C	水稻肥料費が町標準を超えていた	使用肥料銘柄の検討

◆ 3 名が経営分析を実施

◆ 経営成果が視覚的に理解された



共選費を低減するには??

経営実績の可視化、実践的な検討から
若手農業者の経営感覚を培う

4 今後の課題

衛星リモートセンシングに基づく小麦窒素施肥

・ 可変施肥による小麦品質の平準化、収穫適期判断等のデータ集積による実用性の検証

持続的営農活動のための経営課題解決

・ 大豆省力栽培のデータ蓄積、堆肥攪拌機を活用した堆肥化の情報整理

経営解析ツールを用いた経営分析の実施

・ 経営分析結果の考察、経営課題解決実践への継続した支援